

～家庭学習期間を有効活用しよう～

3年生は2月から家庭学習期間に入ります。1ヶ月という長い期間なので、何をしようかあれこれと考えをめぐらせていることでしょう。そこで、ぜひこの期間を有効活用してほしいと思います。具体的には新生活の準備が挙げられます。進学にしても就職にしても、4月から新たな生活が始まります。今のうちから何が必要なかをよく考えて、新生活が始まってからまごつくことのないようにしましょう。



さて、みなさんの高校生活はどうだったでしょうか。あっという間の3年間という人もいれば、ずいぶん長い3年間という人もいることでしょう。もう卒業まであまり日はありませんが、ぜひ3年間の振り返りをしてみてください。もちろん、直近の振り返りをするのも大切ですが、ある程度のスパンの振り返りをする事で、自分の価値観や生涯をかけて達成したい目標など、人生の在り方を考えることができます。あのスティーブ・ジョブズは毎日鏡に向かって、「あなたの生きる目的は？」「今日が人生最後だとしたら、今日やることは本当にやりたいことだろうか。」ということを問い直していたそうです。急にこのような振り返りをする事はできませんので、まずはこの高校生活3年間を見直してみて、これからの生活に活かせるようにしましょう。

【振り返りの手法：KPT】

(1) 表の該当欄に次のことを書き込み、振り返る。

Keep：やってよかったこと。

次も続けたいこと。

Problem：問題だったこと。

改善したいこと。

(2) 振り返った内容をもとに、**Try**の欄に目標などを書き込む。

Ty：やってみること。

目標など。

	Keep	Problem	Try
Be			
Do			

※BeとDoの違い

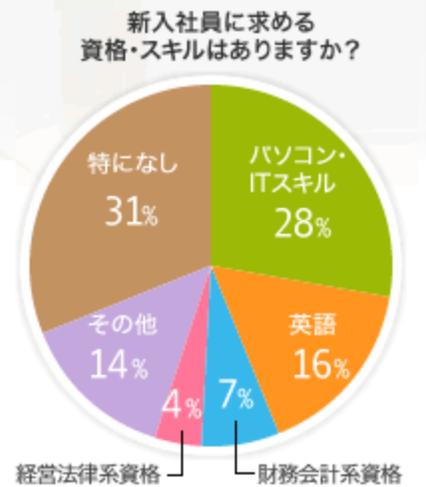
Beはマネジャーとして、意味ある仕事を創る力、ビジョン、精神的な成長

Doはプレイヤーとして、仕事を達成する力、スキル、能力的な成長

☆新生活へのジャンプ☆

【仕事現場注目の資格！】

人事・採用業務経験者171人に行ったアンケート（マイナビ）によると、新入社員に対して特にスキル・資格などを求めているとしながらも、「パソコン・ITスキル」や「英語」は、身につけておいて欲しいと考えていることが分かる。いまやビジネスにおいて、ITや英語力は不可欠なものとなっている。どのような職種でもパソコン操作やITスキルが求められる。英語も同様で、たとえ国内だけでビジネス展開をしている会社でも、材料や部品を海外から調達するなど、英語が必要になる場面が当たり前のようにある。つまりこれらは社会人にとっての基本スキルということになる。人事担当者はそれらの基本スキルを持った上で、財務・会計・金融系資格という専門スキルを求めているのだ。



会計力は経営感覚の証！

簿記検定で、コスト感覚や経営感覚が身につくなど、企業で働く人にとって欠かせない知識を習得しよう。

英語力は勉強と努力の証！

社会人の英語力の指標、TOEIC。努力が点数に表れるので、高スコアをとり、就活時のアピールポイントにしよう。

IT力は即戦力の証！

いまやITを使わない職種はない。少しでも早く即戦力を目指すなら、ITパスポートの取得を考えよう。

①簿記検定にはいくつか種類があるが、最も有名なものが「日商簿記」。これは日本商工会議所および各地商工会議所が年3回実施している検定試験。4級から1級まであり、4級は簿記入門編で、勘定科目に仕分けでき、複式簿記の仕組みが理解できるようになる。最上位の1級になると、大学程度の商業簿記、工業簿記、原価計算並びに会計学を修得し、財務諸表規則や企業会計に関する法規を理解し、経営管理や経営分析も可能になる。このように簿記を理解することは、コスト感覚や自社および取引会社などの経営状態を把握できるようになるなど、経営感覚が身につけられるということ。経理担当者だけではなく、企業で働く人にとって欠かせないスキルなのだ。

②TOEICは、英語によるコミュニケーションを幅広く評価する世界共通のテスト。実はTOEICにはTOEICテスト、初・中級者向けのTOEIC Bridge、TOEIC SWテストの3種類があるが、一般的に企業の中で求められるのは、Listening（聞く）、Reading（読む）という2つの英語力を測るTOEICテストの点数だ。最近ではより実践的な英語力（話す力と書く力）を測定する、TOEIC SWテストも普及しつつある。TOEICは勉強すればするほど、高い点数がとれると言われている。

③ITパスポートは、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家資格。ITに関する知識だけでなく、経営戦略やマーケティング、会計、法務などの経営全般に関する幅広い知識が習得できるのが特長だ。ITに関する知識はパソコン操作に関する知識だけではない。情報システムやネットワーク、データベースの基礎知識のほか、情報セキュリティや情報モラルなどに関する知識も身につく。いまや業種・職種に限らず、ITの知識は不可欠となっている。企業もITに関する基礎知識を備えた人材を求めるのは必至なのだ。

【次世代を担う社会人が知っておくべき8のコト】（マイナビスチューデント より）

①グローバルな視点から物事を見よう！

これから社会に出る若い世代にとっては、目の前の世界を俯瞰して見据える坂本龍馬のような姿勢はますます重要になる。身近な例でいえば、ガラケーからスマホ、mixiからFacebookと注目されるツールが次々と変わっていく世の中がある。次の一手を読むには、海外のトレンドから日本を客観的に見る視点が欠かせない。

②ホスピタリティを持ち続けよう！

相手が本当に必要としているものに気づき、提供する。その行動のもとになるのが「ホスピタリティ」（＝「相手の心に自分の心を寄り添わせて、相手の立場になって対話をする姿勢そのもの」高野登・前リッツ カールトン日本支社長）。これは一朝一夕に身につくものではなく、忍耐強く続けることが必要だ。まずは日常に接する人やものをいつもより注意深く観察してその立場にたってみよう。また、ホスピタリティの先に何があるか考えてみるのもいいだろう。

③リーダーシップとフォロワーシップで組織づくり！

リーダーは、目標を明確に持ち、それに則して合理的に考えることで、さまざまな決断を素早く的確に下すことができる。そのためにも適切な情報収集は不可欠だ。また部下をやる気にさせるには、方向性を示すこと、適材適所に人材を配置すること、成果を公正に評価することが重要だ。そして、部下はリーダーと同じ目線で目標を共有し、批判的思考をもってリーダーの決定をチェックし積極的に意見する。リーダーシップとフォロワーシップがバランスよく存在する組織こそ理想的な組織といえる。

④未来を創造する計画性！

時間は有限な資源であり、浪費してしまえばすぐになくなる。例えば、会議に遅れた人は遅れた時間×出席人数分の時間という資源を無駄にしたことになる。ドラッカーは時間を「代替不可能であり、常にもっとも欠乏している資源」だと言っている。また、細切れの時間がいくらあっても仕事の効率は上がらない。時間をうまくまとめて一度に行う習慣を持とう。メールやSNSに邪魔されがちならば、メールチェックの時間を決めたり、携帯やスマホの電源を一定時間切るなどの工夫をしよう。

⑤読書習慣を自分の強みに！

まず読書の目的を考えよう。リラックスして読書そのものを楽しみたいのか、情報収集したいのか、自己啓発したいのか。そして、目的に応じて読む本、方法、環境を選ぼう。電子書籍かペーパーか、ハードカバーか文庫本か、速読か熟読か、朝読むか夜読むか、家で読むかカフェで読むか、

目印は付箋かしおりか、選択肢は無数にある。それらを組み合わせて自分に合った読書スタイルをつくろう。読書を習慣として身につければ、きっと将来につながる強みになる。読書はさまざまな経験をした先人と語り合うことに匹敵するものだ。

⑥イノベーションを起こせ！



どんなサービス、技術、製品の市場も、現状維持のままではいずれ衰退する。革新は常に求められているが、それを人任せにするような風土からは革新的なものは生まれない。自分が新しいことを始めるんだという気概、開拓精神を持とう。面白いと思うことを見つけてとことん調べてみよう。またそれはなぜ面白いのか考えよう。自分の思考や認識パターンを客観的に捉えてチェックしてみよう。考えたことを人に話してみよう。そういう積み重ねから新しいアイデアは生まれる。

⑦人間関係力をつけよう！



人間関係をつくるには、まず相手に好意を持ち、それを示すこと。また相手の機微をよくとらえて、相手の利益になるように行動すること。ざっくばらんに話し合うことも大事だが、相手や周囲の人に対する配慮は忘れずに。また、なかなか会えない人にも折を見てメールや電話をしよう。消極的にならずに自分から働きかけること。信頼関係を結んだ人は、いつか必ず味方になって助けてくれる。ただし、自分の利益ばかり追求しては関係を壊してしまうことを忘れずに。嫌なことがあっても我慢、我慢。

⑧装いは自分のために！



まず、最低限のマナーとしての身だしなみ。相手に不快感を与えないよう、顔、手指、頭髪、洋服、靴などを清潔に保とう。また、場違い感を出さないよう、TPO (Time, Place, Occasion) を意識して。整った身なりは、細かな点にも気がつく行き届いた印象を相手に与えることができる。自分をよく見せる装いをすれば、知性やセンスをアピールすることもできる。でも最終的には、「装いは自分のために」。どのような格好なら、モチベーションが上がるか、身体が楽に感じるか、似合うか。自分の理想の姿をイメージして、自分のスタイルを模索しよう。

最後に

You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future. You have to trust in something — your gut, destiny, life, karma, whatever. This approach has never let me down, and it has made all the difference in my life. Because believing the dots will connect down the road, it gives you confidence to follow your heart; even it leads you off the well-worn path. And that will make all the difference. (Steve Jobs, Stanford Report, June 14, 2005)